

都道府県名

静岡県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	静岡市立高松中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	言十	教員数
学級数	6	5	5	0	16	教諭 26 講師 3
生徒数	209	195	199	0	603	計 29

研究の概要

1. 研究主題

『一人一人が輝く授業』(分かる授業、学ぶ喜びを味わう授業)
重点 学ぶ意欲を高める課題の工夫

本校の重点目標である「生命 輝かそう」の具現化に向けて、全教育活動を通じて、自己確立のための「挑戦」と、共に学ぶ「思いやり」の心の育成をめざしている。授業では、一人一人の生徒が「輝く授業」を実現するために授業改善をしていくことをめざしている。個に基礎・基本を確実に定着させ、学び方を身に付けることが、「確かな学力」を身に付けることにつながると考えている。そのためには、生徒の実態と教材の基礎・基本を踏まえた魅力ある課題や展開の工夫によって、生徒の学ぶ意欲を高めることが必要である。一人一人の生徒が学習内容を理解(分かる授業)し、追究の中で学ぶ喜びを味わう授業を目指していけば、研究主題の「一人一人が輝く授業」が具現できると考えている。

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・全学年(全教科)
基礎基本の確実な定着を図る方法を工夫し、学ぶ喜びを味わう授業づくりを目指して、学ぶ意欲を高める課題の工夫と教材開発を行う。

・全学年
総合的な学習(本校では『輝きタイム』と呼ぶ)
生徒一人一人の夢の実現を目指した「生き方指導」を展開するため、体験・ふれあいの場を常に念頭におきながら講座を設定したり、個に対する具体的な支援を考えていく。

選択C(本校では『SBS(ステップ・バイ・ステップ)タイム』と呼ぶ)
1年・2年...英語
3年...数学

生徒の希望をもとに集団を構成し、習熟度別学習を行う。集団のコースによって少人数指導となる。生徒の希望に対応するため、教科・コースを十分検討・増設し、補充・深化の学習を実施して、基礎学力の確実な定着を目指す。

・3年生(数学・理科)、1年(社会)
習熟度の程度に差が出やすい3年生と、小学校の学習内容の定着度の差が出やすい1年生に対応するため。少人数指導(T・T)を実施する。特に数学は、指導方法の工夫・改善を数年間実施しており、本研究をリードする役割を担う。

・2・3年(選択教科)
生徒の希望に対応するため、教科・コースを十分検討・増設し、選択履修幅の拡大を行う。補充・深化の学習を実施して、基礎学力の確実な定着を目指す。

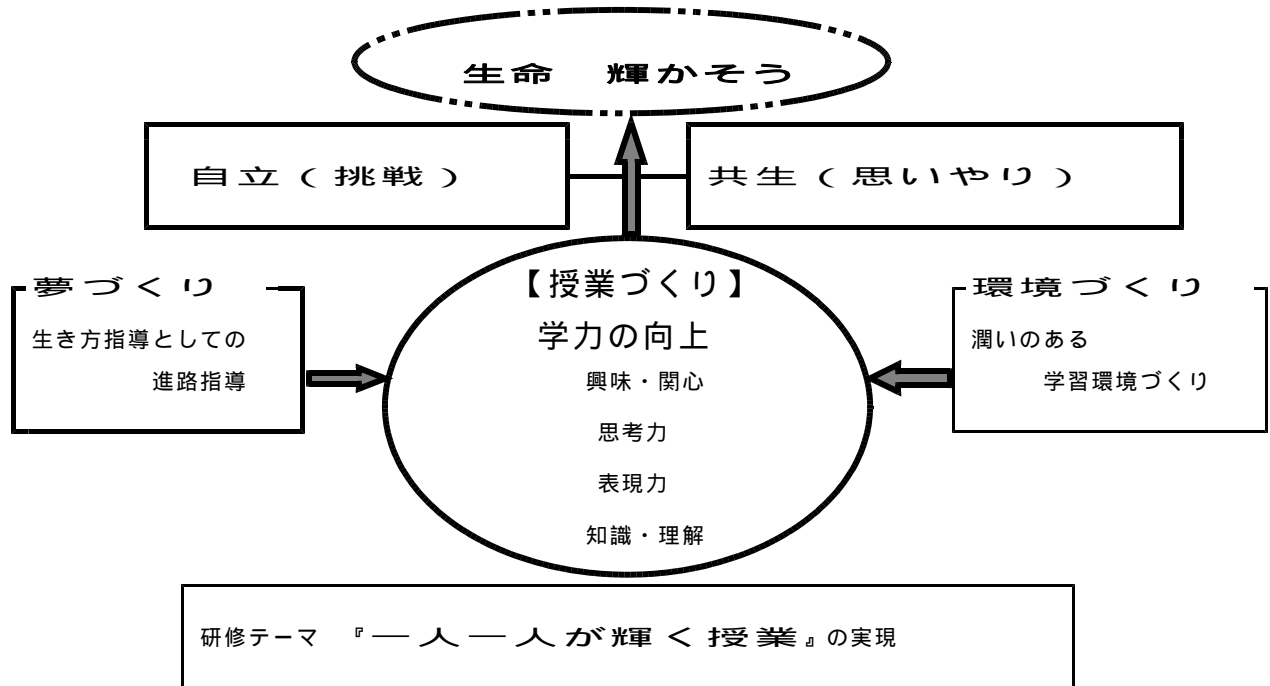
(2) 年次ごとの計画

平成 26 年度	<p>テーマ 『一人一人が輝く授業』(分かる授業、学ぶ喜びを味わう授業) 重点「学ぶ意欲を高める課題の工夫」</p> <p>研究の見通し 以下の仮説をもとに研究をしていく。</p> <p>仮説 1 教材のねらいから基礎・基本を押さえ、さらに、生徒の実態を踏まえた魅力ある課題を工夫していけば、生徒の学ぶ意欲が高まり、授業の中で学ぶ喜びを高める。このような授業を各教科で実践すれば一人一人の自ら学ぶ力は向上し、一人一人が輝く授業(学力の向上)が図れるであろう。</p> <p>仮説 2 本校の生徒の実践目標である「五つの実践」(あいさつ・時間・清掃・聞く・伝える)を、全ての教育活動の中で、機会あるごとに徹底・指導をしていき、当たり前前(今)のことが当たり前前(今)にできるようになれば、それが学習にも大きく影響し、学力向上につながるであろう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>(時間) ・時間を守って授業開始。・スタート学習の充実。 (あいさつ) ・生徒とともにやる気呼び起こす元気なあいさつ。人間関係づくり。 (清掃) ・授業の前の教室環境整備。 (聞く ・伝える) ・課題を明確にし、分かりやすく発問や指示。 (課題を赤チョークで囲む) ・友達の発言を理解しようと真剣に聞き、また、相手に自分の思いを 分かりやすくはっきりと伝える。(ネームプレートの活用)</p></div> <p>研究の内容・方法 研究組織検討。 研究構想図検討。 「確かな学力」を本校ではどのようにとらえるか検討。 「意欲を高める課題の工夫」を全教科の中で実践。 チームティーチングの実践。 習熟度別学習の実践。(SBSタイム) 生徒・保護者に「輝きアンケート」調査の実施。 ほか</p>
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 『一人一人が輝く授業』(分かる授業、学ぶ喜びを味わう授業) 重点 学ぶ意欲を高める課題の工夫</p> <p>研究の見通し 引き続き以下の仮説をもとに研究をしていく。</p> <p>仮説 1 教材のねらいから基礎・基本を押さえ、さらに、生徒の実態を踏まえた魅力ある課題を工夫していけば、生徒の学ぶ意欲が高まり、授業の中で学ぶ喜びを高める。このような授業を各教科で実践すれば一人一人の自ら学ぶ力は向上し、一人一人が輝く授業(学力の向上)が図れるであろう。</p> <p>仮説 2 本校の生徒の実践目標である「五つの実践」(あいさつ・時間・清掃・聞く・伝える)を、全ての教育活動の中で、機会あるごとに徹底・指導をしていき、当たり前前(今)のことが当たり前前(今)にできるようになれば、それが学習にも大きく影響し、学力向上につながるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 研究組織・係分担の再検討。 「意欲を高める課題の工夫」を全教科の中で実践。 チームティーチングの実践。 習熟度別学習の実践。(SBSタイム) 研究発表会の開催。 生徒・保護者に「輝きアンケート」調査の実施。 ほか</p>
----------------	---

(3) 研究推進体制

1. 研究構想図



《仮説 1 = 授業改善》

- | | |
|--|---|
| <p>1. 基礎・基本の定着</p> <p>2. 「学ぶ意欲を高める課題の工夫」
・全学年（全教科）</p> <p>3. 少人数指導による定着度の差に対応
・1・3年（数学・音楽）1年（社会）
・3年（理科）</p> | <p>4. 総合的な学習（『輝きタイム』）
・夢の実現を目指した生き方学習
別紙参照]</p> <p>5. 選択教科による深化・補充
・2・3年（各教科）
・全学年...習熟度別学習（SBSタイム）</p> |
|--|---|

《仮説 2 = 土台づくり》

《五つの実践》

あいさつ	清 掃	時 間	聞 く	伝 える
<p>・生徒とともにやる気 を呼び起こす元気な あいさつ</p> <p>・自分の思いが自由に 発言できる人間関係 づくり</p>	<p>・授業の前の教室 環境整備</p> <p>・ごみは落ちてないか</p> <p>・机が整頓されている か</p> <p>・落ち着いた環境で、 授業が始められるか</p>	<p>・授業の準備が開始 前にできているか</p> <p>・時間を守って 授業開始</p> <p>・スタート学習の充 実</p>	<p>・子どものつぶやき、 光る発言に真剣に耳 を傾ける姿勢</p> <p>・友達の発言を理解し ようと真剣に聞く学 級の雰囲気づくり</p>	<p>・課題を明確にし分か りやすく発問や指示 （課題を赤で囲む）</p> <p>・友達に自分の思いが 伝わるように、分か りやすくはっきりと 伝えさせる指導</p>

2. 研究組織

・研修委員会 校長、教頭、教務主任、研修主任、研修副主任（総合担当・選択担当）

（学力向上委員会） 各学年副主任、生徒指導主事、進路指導主事

少人数指導担当（数学・社会・理科・音楽）、調査部(仮称) 担当

評価部(仮称) 担当

・生徒指導部長会 校長、教頭、生徒指導主事、教務主任、学び方部長、生活環境部長、自立促進部長

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 本校でとらえる『確かな学力』とは？

生命の尊厳を基底に置く

生命 知 徳 体
 生きる力 = 「確かな知性」 × 「豊かな感性」 × 「健康・体力」

この3つは足し算ではなく、掛け算である。それぞれの力や能力・状態がばらばらにあるのではなく、また、ただ集めたものでもなく、人間が生きていく上で欠かすことができず、相互に関連してつながっているものである。

学力のとらえ方

1. 『学力』とは、狭義にとらえると「知識・理解」となり、一般的には「知識・理解 + 思考力」ととらえることが多い。
2. 学校現場では、学習指導要領や指導要録・通信表で示している各教科の観点「関心・意欲 思考力・判断力 表現力 知識・理解」を総合して学力ととらえている。つまり、『学校現場が考える学力』とは、学び合うことによって身につける力である。したがって、学び合う場である授業が基本である。

1.と2.との違いは、

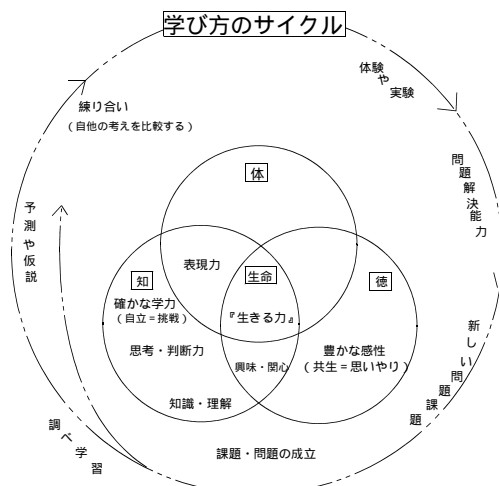
- ・「豊かな感性」につながる大切なものであり、心をベースにした「関心・意欲」を『学力』の大切な要素としていること。
- ・社会に生きる一人の人間として、自分の思いや自分の持つ情報を発信したり、周囲からの情報を受信したりすることで個の確立を図るために必要な「表現力」を『学力』の大切な要素としていること。

まとめてみると、（下の「学び方のサイクル」図を参照）

『学力』とは、「知・徳・体」の「知」にあたる「確かな知性」と、「徳」にあたる「豊かな性」、さらに「体」にあたる「健康・体力」を総合したものであり、それがそのまま『生きる力』となる。

学校現場で我々が育てていく力としてもう少し細かく分析すれば、「確かな知性」の構成要素である「知識・理解」「思考・判断力」、それと、「豊かな感性」が関連して沸き上がる「興味・関心」、さらに、健やかな心身・みなぎる体力（「健康・体力」）が備わっているからこそ生み出される「表現力」の4つの力（観点）が総合されたものが『学力』と考えられる。[国語は、「表現力」が2つに分けられ、5つの力（観点）となる。]

「学び方のサイクル」図



②学校では『学力』(= 『生きる力』) を

どのように育てるか

環境づくりによって生徒に与えられるもの

・生徒と生徒や生徒と職員の間仲間としての信頼感が生まれたとき、授業の中に笑顔が生まれ、本音が言い合える。「分からない」と言え、教師が取り上げ、別の生徒がその説明をしてくれる。そして、「分かった」とうれしそう声上がる。(表現力⇨興味・関心⇨思考力・判断力⇨知識・理解)

夢づくりによって生徒に与えるもの

・生徒会行事や学校行事で仲間と全力を尽くすことにより感動を味わうことにより、その後のフリースピーチが、建前から本音になってくる。(興味・関心⇨表現力)

授業づくりが生徒に与えるもの

・問題解決学習の設定や、課題の明確化(課題を赤で囲む)や工夫、チームティーチング(TT)・習熟度別学習の取り組みや具体物の提示、ネームプレートの活用等の取り組みをすることにより、分かる授業の実践。(4観点全て)

・「あいさつ・清掃・時間・きく・伝える」の5つの実践により、授業の土台づくりを

③各研究分野における成果

全学年全教科において「学ぶ意欲を高める課題の工夫」に伴う教材開発事例集作成。

・生徒が意欲的に学習に取り組むための「課題の提示の仕方」や「具体物の提示」「授業形態の工夫」など、さまざまな工夫を簡略に紹介した事例集としてまとめることができた。(別紙資料参照)

総合的な学習「輝きタイム」の集大成とも言える『輝き学校発表会』(11/13)を開催。

・各教科の基礎・基本をもとに、生徒一人一人の夢の実現をめざして、さまざまな人との出会いの中で3年間研究を積み重ねてきたその集大成として、各講座の代表生徒が全校生徒の前で、それぞれの研究の成果を発表した。

【生徒の感想より】

私は、中学校生活の三年間「輝きタイム」という時間を使い、様々なことを研究し、学んできました。一年生では「葉生姜の真実をさぐる」というテーマのもと、実際の体験を含めた研究を行いました。この研究を通して学んだことは、作るということの大変さ、重大さでした。二年生では「日本の城」というテーマで研究をしました。この研究では、自ら足を運び、世界遺産にも登録されているような城を訪れ、自分の目と体で感じたことを体験レポート風にまとめました。この研究から学んだことは、昔の日本の伝統を現代、そして、未来につなげる、伝えるということの大切さでした。そして三年生では、「未来園舎」というテーマのもと、大阪府の戦前に建てられ、今も変わらず残っているという愛珠幼稚園を訪問しました。最後に行ったこの研究は、古い書物を調べたり、理想の園舎の設計をしたりと、自分が思っていたよりもとても難しく大変苦労しましたが、時間の積み重ねと様々な人の協力により、私の研究はとても深いものとなりました。最終的に、この研究は、自らが考えた未来園舎の模型とレポートによってまとめました。そしてなによりもこの研究は、一年二年と研究し、学んだことが、三年のこの研究に生かされ、これまでの「輝きタイム」のテーマとしての点と点が、一本の太い線につながりました。このことを通して、今までやってきた研究一つ一つが、それぞれ大きな意味があるということ学びました。三年間、総合(的な学習)という授業を通して、積み重ね、あきらめずにやるということの大切さを強く感じました。

習熟度別学習「ステップ・バイ・ステップ（SBS）タイム」を後期より実施。

3ヶ月実施しての生徒の意識調査と感想

1年 英語

1年 SBS タイム アンケート 集計

SBS タイムで英語の学習を行って良かったですか？

1. 良かった [52.4%] 2. まあまあ良かった [42.7%] 3. あまり良くなかった [4.9%] 4. 良くなかった [0%]

同じような課題を持った仲間と、コース別に分かれて学習したことは良かったですか？

1. 良かった [52.1%] 2. まあまあ良かった [39.9%] 3. あまり良くなかった [8.0%] 4. 良くなかった [0%]

あなたの英語の力は、以前より向上したと思いますか？

1. かなり向上した [12.2%] 2. 少し向上した [75.0%] 3. あまり変わらない [12.8%]

上の 1か2と答えた人に質問します。どのような点で向上したと思いますか？

1. 苦手だった英語が少しやる気になってきた [28.7%]
2. 英語の基礎的な文なら理解できるようになってきた [43.9%]
3. テストで点が取れるようになってきた [22.0%]
4. 英語の学習が好きになってきた [18.9%]
5. その他（わからないことがわかるようになった・単語を覚えることができた・英文が速く書けるようになった・授業でわからなかった部分の遅れを取り戻せた・新しい英文に出会って覚えることが楽しくなってきた・応用がきくようになった・曖昧なところがわかった など） [8.5%]

SBS タイムで学習することによって、自分のどんな点が変わりましたか？

1. 英語の授業に取り組む姿勢が良くなった [31.7%]
2. 英語の授業で発表できるようになった [15.2%]
3. 英語の家庭学習時間が増えた [32.3%]
4. 英語以外の授業にも取り組む姿勢が良くなった [9.8%]
5. 英語以外の授業でも発表ができるようになった [9.1%]
6. 全体的に家庭学習の時間が増えた [12.8%]
7. 特に何も変わらない [17.1%]
8. その他（わからない所を友達や先生に聞けるようになった [3.7%]
・習っていない所も自信を持って自主勉強できるようになった
・いろいろな文法知識が増えた・英語に興味を持つようになってきた など）

【分析・考察】

・95%以上の生徒が、SBS タイムで英語を学習したことを「良かった」「まあ良かった」と答えた。90%を超える生徒が、コース別学習という学習形態を「良かった」「まあ良かった」と答え、87%以上の生徒が、英語の力が以前より向上したと答えた。

・基礎コースの生徒については、苦手が英語が好きになり、やる気になることが学力を向上させる第1歩だと感じられた。

・充実コースでは、「同じ位の仲間と共に学べて良かった」「嫌な英語が好きになった」「最初は必要ないと疑問を感じたけれど、今はやって良かった」というような感想も多く、苦手を克服したりやる気になったようである。最近の授業の内容も復習したいという要望もあった。

・全体を通して、繰り返し基礎的な構文を全員で覚えるまで学習できたため、自信もついたようである。また、実力に合った内容・ペースで授業を進めるので、集中して学習に取り組めたようである。

[生徒の感想より]

今まで英語が分からなくて嫌いだったけれど、SBSタイムで英語を勉強していくと、だんだん理解できるようになり、テストなどでも点が取れるようになってきました。授業は、私たちに合わせてゆっくり分かりやすく、また、分かるまでいねいにやってくれたので、前分からなかったところとかも「ああ、そうか!」と分かって、すごくためになりました。英語の授業でも、ずっと全く分からなくて、あまり集中できなかったけど、どんどん分かってきて、とてもうれしかったです。

僕は、SBSタイムのおかげで、(定期テストで)20点台だった英語が学力調査で41点まで上がりました。今までは英語が嫌いだったけど、得意になりました。あと、周りが同じ目標の人なので、とても分かりやすかったです。2年生とかになっても、こういうことをやってほしいです。

2年 英語

SBSタイムアンケート・集約結果

あなたの英語の力は以前より向上したと思いますか。

1, 思う 65.9% 2, 思わない 7.5% 3, どちらともいえない 26.6%

どの様な点で英語の力が向上したと思いますか。

1, テストで点が取れるようになった 12.7%

2, 英語の授業が分かるようになった 24.3%

3, 筆記体が書けるようになった 75.1%

4, 向上したものは何もない 13.3%

5, その他 (問題が早く解けるようになった、単語力がついた、文法の力がついた、役の力がついた、英語を正確に書けるようになった) 12.7%

SBSタイムを行ってどの様な力がついたと思いますか。

1, 英語の勉強時間が増えた 58.4%

2, 家庭学習の時間が増えた 26.0%

3, 英語以外の教科の学習へも興味が増した 12.1%

4, 授業態度が良くなった 5.8%

5, 物事にじっくり取り組む姿勢が身についた 34.7%

6, 何も力はつかなかった 9.8%

7, その他 (集中力、英語を楽しむ力、語彙力) 8.1%

SBSタイムのクラスについて、同じ様な課題を持った仲間とコース別に分かれて学習したことについてどう思いますか。

1, 良かった 71.7% 2, 良くなかった 4.6% 3, どちらともいえない 23.7%

SBSタイムで英語の学習を行った感想を書いて下さい。

話をせず集中して自分のペースで出来た。忘れていた単語などを思い出す機会となった。分からないことを辞書を使って自分で調べるようになって良かった。同レベルの中の学習でライバル心が湧いてきた。一年からの復習がじっくり出来たので良かった。自分は書くのが遅かったけど繰り返すうちに早く書けるようになった。おかげで授業の内容が分かるようになった。始めは筆記体なんて書けなかったけどSBSタイムの時間に練習したり家で書くようにしているうちに上達した。自分一人で問題を解くのはおもしろくないけれど力をつけるためには楽しいばかりでは駄目だと思うので必要だと思った。普通の授業ではやらないような事をやったので楽しかった。家で今まで問題を解くことはなかったので英語が理解できた。辞書を使うくせがついて良かった。極端に難しい問題という訳ではなかったが大量の問題を解いたので力になったと思う。以前は分からないところは後回しにしていたがSBSで分からなかった所も分かるようになった。得意でなかった英語に自信が持てるようになった。今までこんなに真剣に集中して勉強したのは初めてと言うくらい一生懸命取り組めた。始めはみんなについて行けなかったけど授業について行けるようになった。毎回違った英文や単語の勉強が出来て良かった。

分析と考察

- ・ 65%の生徒がSBSタイムで英語の力が向上したと考えている。また、どちらとも言えないを含めると92.5%に達する。
- ・ 75%超の生徒がSBSタイムを行ったことでアルファベット筆記体を書けるようになった。
- ・ 12%の生徒がSBSタイムの成果として基礎テスト、定期テスト、効果測定テストでの得点アップを挙げている。
- ・ 85%超の生徒がSBSタイムを契機にして英語を含めた学習時間の増加を認めている。(時間内に出来なかった場合は宿題にして見届けまでしたことも好結果に繋がっていて、家庭で机に向かう時間が増え、家庭学習の習慣も身につけてきている)
- ・ 12%の他教科への波及効果として授業態度の向上が認められる。
- ・ 習熟度別クラスの集団の雰囲気作りとして、「教え合いの場」としてとらえず、「一人学びの時間」と捉えたことで集中して学習に取り組ませることができた。
- ・ 同じことの繰り返しが力をつけることに繋がることを何となく生徒は感じ取ってきている様子が伺えるようになってきた。
- ・ 家庭で落ち着いて学習する習慣がついていない生徒が多いため、黙々と学習する時間を提供することは、生徒への学習意欲の喚起という点で効果的であった。
- ・ 習熟度別クラス編成により、同レベルの仲間と学ぶことに対して安心感を抱いている生徒もみられる。

今後の課題

- ・ 上位クラスの生徒の中には、更に高度の学習内容を期待する生徒や授業内容の先取りを期待する声もあり、その期待に今後どの様に答えて行くか。
- ・ 興味関心偏重の教育の中で育てられてきた生徒たちに対し、プリント中心の自己解決型の学習をいかに定着させていくか。
- ・ 下位クラスの生徒の中には、ノートや辞書などの忘れ物をするなど基本的な学習習慣が欠如していたり、能力的な差が顕著であったり、学習意欲に明白な差があったりする生徒が混在する傾向が特に高いが、そのような集団に対しての細部にわたる指導を如何に行っていくか。

3年 数学

3年 SBS タイム アンケート 集計

SBS タイムで数学の学習を行って良かったですか？

1. 良かった 2. まあまあ良かった 3. あまり良くなかった 4. 良くなかった
[51.7%] [43.3%] [5.0%] [0%]

同じような課題を持った仲間と、コース別に分かれて学習したことは良かったですか？

1. 良かった 2. まあまあ良かった 3. あまり良くなかった 4. 良くなかった
[62.7%] [33.5%] [3.8%] [0%]

あなたの数学の力は、以前より向上したと思いますか？

1. かなり向上した 2. 少し向上した 3. あまり変わらない
[10.2%] [79.0%] [10.8%]

上の 1か2と答えた人に質問します。どのような点で向上したと思いますか？

1. 苦手だった数学が少しやる気になってきた [29.3%]
2. 数学の基礎的な問題なら解けるようになってきた [37.6%]
3. テストで点が取れるようになってきた [7.7%]
4. 数学の学習が好きになってきた [13.3%]
5. その他(苦手な問題が解けるようになった・計算スピードが速くなった・苦手なところがわかった・基礎が定着したなど) [14.9%]

SBS タイムで学習することによって、自分のどんな点が変わりましたか？

1. 数学の授業に取り組む姿勢が良くなった [28.2%]
2. 数学の授業で発表できるようになった [7.7%]
3. 数学の家庭学習時間が増えた [50.3%]
4. 数学以外の授業にも取り組む姿勢が良くなった [6.1%]
5. 数学以外の授業でも発表ができるようになった [1.7%]
6. 全体的に家庭学習の時間が増えた [23.8%]
7. 特に何も変わらない [16.6%]
8. その他(わからないところがわかるようになった・やる気が高まった・難しい問題に挑戦できるようになった塾の問題がわかったなど)

[分析・考察]

- ・ 90%を越える生徒が、SBSタイムで数学を行ったことを「良かった」「まあ良かった」と答えた。95%を越える生徒が、コース別学習という学習形態を「良かった」「まあ良かった」と答えた。90%近い生徒が、数学の力が以前より向上したと答えた。
- ・ 数学を苦手とする生徒が多く、SBSタイムで数学を扱ったことで良い時間となった。特に單元ごとのクラスにしたことで、友達と教え合いながら、じっくりと自分の苦手単元を学習することができたようである。
- ・ SBSタイムで基礎が定着したので、半数以上の生徒に家庭学習で応用問題に挑戦するなどの積極性も出てきた。
- ・ 今後も継続して取り組んでいくことで、数学の力が全体に向上していくと考えられる。

[生徒の感想より]

今まで関数ができなかつたけど、間違えたところを友達に教えてもらって、だんだんできるようになってきた。計算も、前よりは速く正確になってきた。自分の苦手なところが出てきて、良かったと思います。でも、もう少しやらないと心配です。なので、SBSタイムでもらったプリントなどを何回もやり直して、もっと速く正確にしたいです。

一番苦手な教科で、他の教科よりがんばらなきゃならなかつたのでこの時間で特に苦手だった関数を基礎から復習できて、とても良かったです。有意義な時間を過ごすことができたと思います。家でも勉強して、かなり分かるようになりました。

(通常の)授業とは違って、それぞれが自分に合ったペースで学習を進められるため、考える時間を自分で作れてとても良い学習になっています。また、分からない時は、先生が考えるヒントを下さるので、とても自分に合った勉強ができて良いです。

3年数学と理科において、チームティーチング(T・T)実施。

・数学

数学においては、昨年度からT・Tを実施しているが、昨年度と今年度、同じ集団に同じ項目でアンケート調査を行っているので、その結果を比較して紹介する。

(実際のアンケートと分析結果については、別紙資料参照)

	質 問 事 項	H14(中2)	H15(中3)
1	授業がおもしろくなった	46%	47%
2	気軽に質問できる	43%	56%
3	丁寧に教えてもらえる	46%	78%
4	今までよりわかるようになった	95%	94%

分析総括

T T 学習は、最初生徒にとっても戸惑いがあるものの、時間の経過とともに教師の指導方法にも慣れ、1人の教師の一斉授業よりも気軽に質問できたり、理解が深まるため効果があり、「確かな学力」の育成にもつながると期待できる。

2. 今後の課題

研究組織の再検討

- ・研究については全職員で行ってきたが、全職員を巻き込んだ係分担が明確にされていなかったため、分析やデータの蓄積・研究資料の集約等が組織的に行われなかった。来年度は、スタート時点でそれらを明確にし、発表会に向けて研究結果をまとめていきたい。データを蓄積・比較をしていくため、校内におけるさまざまな取組の評価の観点や基準の統一をしていく。
- ・研究の方向性としては、今年度の取組（仮説1と2）を継続していきたい。
- ・研究発表会の持ち方について、検討。

学力把握のための学校としての取組

- ・定期的な学力調査の実施と分析（国語・社会・数学・理科・英語）
- ・定期テスト（5回）・学力調査（3年生2回、1・2年生1回）
- ・基礎テストの実施
- ・国語（漢字）、数学（計算）、英語（英単語）を旧各学期1回ずつ。計9回実施。
- ・習熟度別学習における定着度調査。
- ・全校生徒の達成感調査（『輝きアンケート』と呼ぶ）
- ・授業で輝けたかどうかの調査を重視。 など

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成16年、4月以降、HPの作成を行い、研究成果の普及を図る。
平成16年10月22日（金）、研究発表会を実施予定。それに伴い、研究結果をパンフレット等にまとめて普及に努める。
HP:<http://www.ctc.ne.jp/takamatu-jhs/> e-mail:t-takama@ctc.ne.jp

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無